

ほすびたる

No.752

令和3年1月20日
福岡県病院協会

C O N T E N T S

- | | | | |
|-------------|---|---|---|
| 新年の挨拶 | 年頭のごあいさつ | 福岡県知事 小川 洋 | ① |
| | 新年のご挨拶 | 公益社団法人福岡県医師会
会長 松田峻一良 | ② |
| | 謹賀新年 | 公益社団法人福岡県病院協会
会長 赤司 浩一 | ③ |
| 特別寄稿 | 九州大学総長就任にあたって | 九州大学
総長 石橋 達朗 | ⑤ |
| メンタル
ヘルス | 「支え、支えられる」相互的
なメンタルヘルス支援
—久留米大学病院での「ラインケアラウンド」— | 久留米大学保健管理センター（産業医）/
久留米大学医学部神経精神医学講座 准教授 | ⑦ |
| | 福岡大学病院におけるCOVID-19チーム
スタッフ・サポートプロジェクトについて | 福岡大学医学部
精神医学教室 講師 衛藤 暢明 | ⑨ |
| 病院管理 | 病院の課題 | 済生会二日市病院
院長 壁村 哲平 | ⑫ |
| Letter | ウシ、丑、ビーフ
そして牛痘 | 国立病院機構九州医療センター 名誉院長
学校法人原学園原看護専門学校 名誉校長 | ⑭ |
| Essay | 色失へる | 元医療法人誠十字病院
平衡神経科 医師 安田 宏一 | ⑯ |
| | 人体旅行記 乳房（その一） | 国立病院機構都城医療センター
院長 吉住 秀之 | ⑰ |
| | ■福岡県私設病院協会「令和2年12月 福岡県私設病院協会の動き」 | | ⑱ |
| | ■編集後記 | 岡嶋泰一郎 | ⑳ |

Teleradiology Service. and ASP Service.

確かな診断を、より確かなものに。
ネットワークを利用した読影サービスで、
あなたをバックアップします。



Teleradiology

～遠隔画像診断サービス～
医療に地域格差があってはならない
そう私たちは考えます。

ASP Service

～遠隔画像診断ASPサービス～
放射線科の先生方向けに、遠隔
読影システムから課金に至るまで
統合的にサービスをご提供します。

株式会社ネット・メディカルセンター

〒815-0081 福岡市南区那の川1丁目24-1
九電工福岡支店ビル6階
フリーダイヤル:0120-270614 FAX:092-533-8867
ホームページアドレス <http://www.nmed-center.co.jp/>

病院寝具・病衣・白衣・タオル及びカーテン・ベッドマットのリース・洗濯
患者私物衣類の洗濯・紙おむつ・介護用品等の販売

福岡県私設病院協会グループ

福岡医療関連協業組合

理事長 江頭啓介

専務理事 佐田 正之
理事 原 寛
理事 陣内 重三
理事 牟田 和男

理事 津留 英智
監事 杉 健三
監事 松村 順
事務局長 日比生英一



JQA-QMA
15863



〒811-2502 糟屋郡久山町大字山田1217-17
TEL(092)976-0500 FAX(092)976-2247

Clean & Comfortable

清潔さと快適さを追求します



年頭のごあいさつ

福岡県知事

小川 洋



新年あけましておめでとうございます。公益社団法人福岡県病院協会の皆さまには、日ごろより県民の健康の増進と地域医療の確保にご尽力いただき、心から感謝申し上げます。

昨年は、災害と新型コロナウイルス感染症への対応に全力を挙げる一年でした。

「令和2年7月豪雨」により、本県は、4年連続の災害となりました。それぞれの被災地の一日も早い復旧・復興に、引き続き、全力で取り組んでまいります。

新型コロナウイルス感染症が世界中でまん延し、私たちの生活や経済に大きな影響を与えています。県では、感染防止対策、医療提供体制の確保と併せ、県民の皆さまの生活の支援や事業者の皆さまの事業継続の支援などに取り組んできました。

医療従事者の皆さまには、自らの感染リスクを顧みず、感染された方々の治療や看護などに昼夜を問わず奮闘していただきました。こうした皆さまのご尽力に深く感謝申し上げます。

コロナとの闘いは、これからも続きます。社会全体で感染防止を図りながら、今年の干支の丑年らしく、一步一步着実に社会経済活動のレベルを上げてまいります。

また、ポストコロナを見据え、諸課題にしっかり取り組み、県内各地の魅力を高めることによって、福岡県を元気にしていきます。そして、福岡県を日本海側に位置し、アジアを向いた一大拠点として発展させ、九州、日本を引っ張っていきます。

さて、県では、地域における外来医療機能の不足・偏在などへの対応や医師の偏在を是正するため、医療審議会をはじめとした各協議会において活発に議論していただき、昨年3月に、「福岡県外来医療計画」および「福岡県医師確保計画」を策定したところです。

貴会には、医療審議会や各区域における地域医療構想調整会議などを通じて貴重なご意見をいただきましたこと、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

県としましては、県民の皆さまがいつでも、どこでも、安心して必要な医療サービスを受けられることができる医療提供体制の構築に向け、地域医療構想の実現、そして、地域包括ケアシステムの構築に取り組んでまいります。

また、生涯にわたり長く元気に暮らしていくためには、「健康寿命」を延ばしていくことが重要です。医療、介護の充実と併せ、県民一人一人が改めて自分の健康について考え、自らその維持、増進に取り組んでいく「ふくおか健康づくり県民運動」を具体的かつ着実に進めていきます。

貴会におかれましては、本年も引き続き、赤司会長のもと、より一層のご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

新年が公益社団法人福岡県病院協会ならびに会員の皆さまにとって、素晴らしい一年となりますよう、心からお祈りいたします。

新年のご挨拶



公益社団法人福岡県医師会
会長 松田 峻一良

新年明けましておめでとうございます。年頭にあたり謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

昨年、新型コロナウイルス感染症が瞬く間に世界中で蔓延し、これまでの日常生活や社会経済活動に大きな影響を与えた1年でした。

未だ収束が見えない中、医療従事者の皆さんは混乱する医療現場で多くの困難に直面しながら、地域の医療を支えて頂いておりますことに心から敬意を表します。

感染症対策で重要なことは、早期発見と早期隔離であるため、福岡県では、当初からPCR検査の対象者を国の基準より拡大して濃厚接触者全てを検査することと、出来るだけ陽性者の自宅療養を無くすという方針を決定し、重症度に応じた医療体制構築を目指しました。

しかし、もはや医療従事者の倫理観や責任感だけでは、期待に応えられない状況になってきているのも事実であり、医療体制を守るために夫々の立場で何ができるのか考え共に行動する時期にきております。

本会では、昨年12月に陽性者へ宿泊療養をお願いするチラシを福岡県、北九州市、福岡市、久留米市、福岡県医師会の連名で作成し、自宅療養を極力なくしていく取り組みをしております。濃厚接触者を広く検査して、陽性が判明したら宿泊療養へ移行し、悪化した場合はすぐに入院していただくという基本的な流れを恒常化することで、県民がしっかりと感染対策をしながら新しい生活様式を実行できるようにすると

ともに、医療従事者の負担も軽減できると考えております。

また、昨年末、厚生労働省は「医師の働き方改革の推進に関する検討会」において、中間とりまとめを公表しました。医師の派遣については、連携B水準対象医療機関を指定することや、地域医療提供体制への影響については、地域医療構想との整合性を確認し、都道府県医療審議会の意見を聴取することがあらたに明記されております。医師の働き方改革は、医師の健康確保と質の高い医療提供体制の確保との両立が大前提であり、以前から、医師の職業の特性を十分に考慮した制度が求められておりましたが、今一番危惧しているのは、このコロナ禍における拙速な施行は、更に医療機関を疲弊させ、救急医療だけでなく、地域の医療提供体制を崩壊させる危険があることです。

地域における外来機能の明確化と連携、そして、かかりつけ医機能の強化が議論される中、今後の医療提供体制をどのようにしていくのか、コロナ禍において根本的に変えていくべきことは何かを常に問いかけ、医療政策を提言しその道筋を作っていくことが求められているのではないのでしょうか。

目の前の課題に迅速に対応することは勿論、コロナが収束した後の医療提供体制も視野に見据えながら、励んでまいりますので、引き続き、皆様のご協力、ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

謹賀新年



公益社団法人福岡県病院協会
会長 赤司 浩一

皆様、明けましておめでとうございます。昨年の御挨拶からあっという間に1年が過ぎ、新年を迎えることとなりました。昨年は全世界が新型コロナウイルス感染症の脅威に震撼した年でした。今年はこの大きな禍の渦がどのように展開していくのでしょうか。

遡ること約100年、1918年から1920年にかけて新型インフルエンザウイルスによる「スペイン風邪（新型インフルエンザ）」が、世界を席卷しました。私が所属する九州大学第一内科の初代稲田龍吉教授が、1920年秋に開催された第17回日本内科学会で「インフルエンザの臨床的事項」と題して宿題講演をされています。その記録を紐解いてみますと、その時点では「スペイン風邪」はウイルスによるものとは明らかになっておらず、経時的な世界各地への広がりに関する記載に始まり、個々の症例において高熱から急速に肺炎が悪化し、心血管、腎臓を含む様々な臓器障害が出ること、特に高齢者に高い致死率を示すこと、さらにマスクや衛生的な生活の重要性など詳しく総括されており、徒手空拳で診療にあたった当時の医療人の苦闘が読み取れます。今回の新型コロナウイルス感染症は、歴史の中で人類が幾度も経験してきたパンデミックのひとつですが、現代人が「グローバル化」という国境を越えた移動を前提とした理念の元に集束した結果、急速に拡散し、類を見ない世界同時発症パンデミックとなりました。この状況を見渡すと、原因も診断法も分かっている点で進化した医療体制を持つ現在において、人類がどのようにこ

のパンデミックを乗り越えていくのか、さらに将来の人類に対してどのような教訓を残せるのかを問われているようにも感じます。

昨年は、感染症指定医療機関の粉骨砕身の働きはもちろんのこと、福岡県病院協会の各病院、さらにクリニックに至るまで、福岡県が一体となって新型コロナウイルス感染症と戦った一年でした。福岡県では2月にCOVID-19の第一症例が診断された後、3月に入って患者数が爆発的に増え、県内4つの感染症指定病院の感染症病床が急速に埋まりました。第一波ではマスク、PCR試薬等の医療資源が枯渇し、医療システムそのものが一気に窮地に追い込まれました。第二波では第一波での経験を活かしホテル活用も含めた全県的対応で何とか収まりました。県全体の対コロナ医療体制は、この1年で急速に整備され充実しています。ただ、今回の第三波は第二波で整えた医療システムから溢れそうな勢いで患者が増えており予断を許しません。

福岡県病院協会は、主として情報交換を通じてコロナ対策に協力し、各病院が県の対策と歩調を合わせて診療を行うための役割を果たしていく所存です。関係医療機関の惜しみない尽力についてはもちろんのこと、この感染症に立ち向かっている医師、看護師、検査技師等、すべての医療スタッフに心から敬意を表します。県民の健康・生活を守るという我々の本来の役割を果たすために、先人たちの努力に伍するべく、手を携えてこの難局を乗り越えていかなければなりません。皆様、体調に気を付け感染予防を心がけ、力を合わせて今年も頑張りましょう。

謹賀新年

公益社団法人 福岡県病院 協会役員一同



役職名	氏名	所属病院及び役職
会長	赤司浩一	九州大学病院 病院長
副会長	志波直人	久留米大学病院 病院長
〃	田中文啓	産業医科大学病院 病院長
〃	岩崎昭憲	福岡大学病院 病院長
〃	一宮仁	国家公務員共済組合連合会浜の町病院 病院長
専務理事	平祐二	医療法人原三信病院 理事長
総務理事	岩永知秋	久山療育園 重症児者医療療育センター センター長
財務理事	伊東裕幸	宗像医師会病院 病院長
企画理事	壁村哲平	済生会二日市病院 院長
理事	安藤文英	医療法人西福岡病院 理事長
〃	江頭啓介	医療法人社団江頭会さくら病院 理事長 兼院長
〃	於保和彦	一般財団法人医療・介護・教育研究財団柳川病院 院長
〃	桑野博行	福岡市立病院機構 福岡市民病院 院長
〃	小嶋享二	福岡県立精神医療センター太宰府病院 院長
〃	島弘志	社会医療法人雪の聖母会 常務理事 兼聖マリア病院 病院長
〃	津留英智	社会医療法人水光会宗像水光会総合病院 理事長
〃	中房祐司	福岡赤十字病院 院長
〃	平城守	公立八女総合病院 企業長 兼院長
〃	深堀元文	医療法人社団益豊会今宿病院 理事長 兼院長
〃	前原喜彦	公立学校共済組合九州中央病院 病院長
〃	増本陽秀	飯塚病院 院長
〃	松浦弘	済生会福岡総合病院 院長
〃	森田茂樹	国立病院機構九州医療センター 院長
〃	山下博徳	国立病院機構小倉医療センター 院長
〃	横倉義典	社会医療法人弘恵会ヨコクラ病院 院長
監事	野村秀幸	社会医療法人原土井病院 病院長
〃	原寿郎	福岡市立病院機構 理事長 兼福岡市立こども病院 院長
議長	岡嶋泰一郎	社会保険仲原病院 院長
副議長	梅野守男	早良病院 院長
顧問	今泉暢登志	医療法人済世会河野病院 院長
〃	河野正美	医療法人済世会河野病院 理事長
〃	瓦林達比古	一般社団法人福岡県社会保険医療協会 理事長
〃	久保千春	中村学園大学・中村学園大学短期大学部 学長
〃	石橋達朗	九州大学 総長
〃	岡留健一郎	済生会福岡医療福祉センター 総長
〃	上野道雄	国立病院機構福岡東医療センター 名誉院長
〃	寺坂禮治	社会医療法人財団池友会福岡和白病院 特別顧問

九州大学総長 就任にあたって

九州大学 総長 石橋 達朗



2021年をいかがお迎えでしょうか。新年、明けましておめでとうございます。今年が皆様にとって良い年でありますことをお祈りいたします。

昨年10月1日、九州大学の第24代総長に就任いたしました。

新型コロナウイルス感染症の収束の見通しが立たないまま冬になり、世界的に感染拡大が続いています。今回の新型コロナウイルス感染症は、瞬く間に日本はもとより世界中に蔓延し、世界社会の在り様を変えてしまいました。近年、このように地球規模で社会、経済活動、日常生活が脅かされたことはなかったと思います。世界中の人々が不安を抱え困っていますが、未だこの危機を乗り越える解決策は定かではありません。医療従事者の皆様には、今回の感染症治療や対策で、どれほど大変なご苦勞をされておられることかと、そのご多大なご尽力に心から感謝いたします。

九州大学も入学式は中止となり、構内への立ち入りも制限され、学生はオンラインでの受講を余儀なくされましたが、感染対策を徹底して9月下旬に新入生歓迎式を行い、対面での講義も少しずつ始まりました。感染拡大の防止と教育研究活動とを両立させるという課題を乗り越えようとしているところです。また今回の未知の感染症対策、あるいはそれに付随して起こった経済活動や人の心の問題など、それらの難題を解決していくことに、大学が果たす役割は大きく重要であると考えています。

馬出キャンパスで50年近く過ごした私にとって、10月から通い始めた伊都キャンパスは少しよそよそしく感じていました。身を引き締めて向かっているつもりですが、今までとは大いに異なり戸惑うことも多々あります。毎日出てくる膨大な書類には目を見張り、肩が張ります。また大学に関係する組織は多く、その一つ一つとの関係を確認するのも仕事です。大学は同窓会との関係も活発にして大学の発展に協力していただこうとしているところですが、先日、法学部同窓会長の羽田野 節夫先生にお目にかかる機会がありました。その折に福岡県立美術館で開催されていた「吉田博展」に話が及び、先生はその素晴らしさを説かれ、3度も観に行ったと話されました。忙しさにかまけ、

福岡ではほとんど美術館に足を運んだことのない私でしたが、なぜか「吉田博展」が気になり、最終日に駆け込んで観にいきました。案の定、思わず見はまるほど秀逸な絵の数々で充実した展覧会でしたが、その中に「上高地の夏」という絵があり、それは九州大学の工学部本館所蔵で100年もの長い間、門外不出であった絵だと書いてありました。羽田野先生は私がこの絵を観るべきだと思われたのだと悟りました。お目にかかった時には、この「上高地の夏」の絵のことには触れられなかったことが、かえって先生の思いやりのように感じられ、とても感謝しました。伊都にきて、教育とはとか、大学とはということを改めて考えさせられる日々を過ごしていますが、私にも新鮮な学びがあり、伊都にいることを嬉しく思いました。

大学の使命は教育、研究、社会貢献といわれます。学生が探究心を持ち、学びをやり遂げられるように教職員には教える執念が必要であり、研究には充実した環境が必要です。大学は運営から経営へといわれますが、基礎研究などを支えるために、国はもっと教育にお金をかけるべきだと感じます。教育に投資することなくして日本の未来は明るくありません。

今年、九州大学は110周年を迎えます。その間に生まれ培われた本学の学問、研究の歴史、伝統の大きさ、重さを改めて感じています。福岡県病院協会会員の皆様には、これからも本学に変わらぬご支援、ご協力を頂きますようによろしくお願い申し上げます。



「支え、支えられる」 相互的なメンタルヘルス支援

—久留米大学病院での「ラインケアラウンド」—

久留米大学保健管理センター（産業医）／
久留米大学医学部神経精神医学講座 准教授

大江 美佐里

COVID-19の拡大により、各医療機関とも医療従事者の心的負担が重要な課題となっている。特に、精神科医師や公認心理師等の専門職が勤務していない病院では、全職員に対してメンタルヘルス（以下「MH」）支援をどのように行うのか懸念する声もきかれる。2015年よりストレスチェックが開始され、常日頃のストレス要因について産業医が把握する機会は増えているが、職場全体で状況を認識し職場環境の改善にまでつなげているところは少ないかもしれない。

学校法人久留米大学は、久留米大学病院と医療センターの2病院を有しており（本稿では2病院をまとめて「当院」とする）、2011年から看護部にメンタルヘルスワーキンググループ（以下「WG」）を置き約10名の委員が月1回の定期的なミーティングを中心に心の健康を維持するための活動を行ってきた。このうち、当院で考案した活動であるラインケアラウンドが、専門職が配置されていない病院での組織的なMH支援にも役立つ可能性があると考えている。

「ラインケア」という単語は厚労省が掲げるMH対策の一つで、管理職（管理監督者）が部下の様子を観察し、不調を早期発見することを目的としている。しかしながら、ラインケアにおいては、以下に挙げるような問題に管理職が悩んでいることが多い。

- 1) 部下のMH不調を適切に察知できるのか
不安
- 2) 管理職自身のストレスを話す場がない

- 3) MH問題とまではいえないかもしれないが、病棟内の人間関係や患者対応、新人教育等の業務上の心配事がある

当院には職員の相談室（専門職による面談組織）が以前からあったものの、守秘義務の問題があり、病棟等部署の抱える問題を共有し対応するという体制にはなっていなかった。そこで、WGの活動として、WGメンバー（主に師長・主任）2-3名がグループを組み、担当部署を月に1回定期的にラウンドするという、「ラインケアラウンド」（以下「ラウンド」）を2015年に開始した。ラウンドの目的は以下の通りである。

- 1) 管理職への支援（管理職者の心理的負担の軽減：ラインケアをする人への支援）
- 2) 病休からの復職者、異動者、新人、といった不調になりがちな職員を中心にした、MH不調に関連する情報の把握
- 3) 2)の情報を会議で共有し、可能な範囲で環境改善策等を検討する

また、年度初めにはWGメンバーの産業医より以下を記した文書を配布し、ラウンドの心がけについて意思統一を図っている。

【ラウンドの心がけ】（文書より抜粋、一部改変）

- 1) 管理職の方へのねぎらい、心身負担軽減が一番の目的です。「管理職自身のストレスもあり、話を聞いてもらえてうれしい」という声も頂いています。
- 2) ラウンドは、「その場で問題解決をする」ことを直接の目的とはしていません。問

題の内容によっては産業保健スタッフが個別に対応すべき問題もあります。ラウンド時に緊急性の高い案件であることが明らかになった場合は、管理職から直接産業医に連絡するようお願いしてください。緊急性の低いものについては、毎月の会議で対応策を検討します。検討結果を当該管理職にお伝えください。

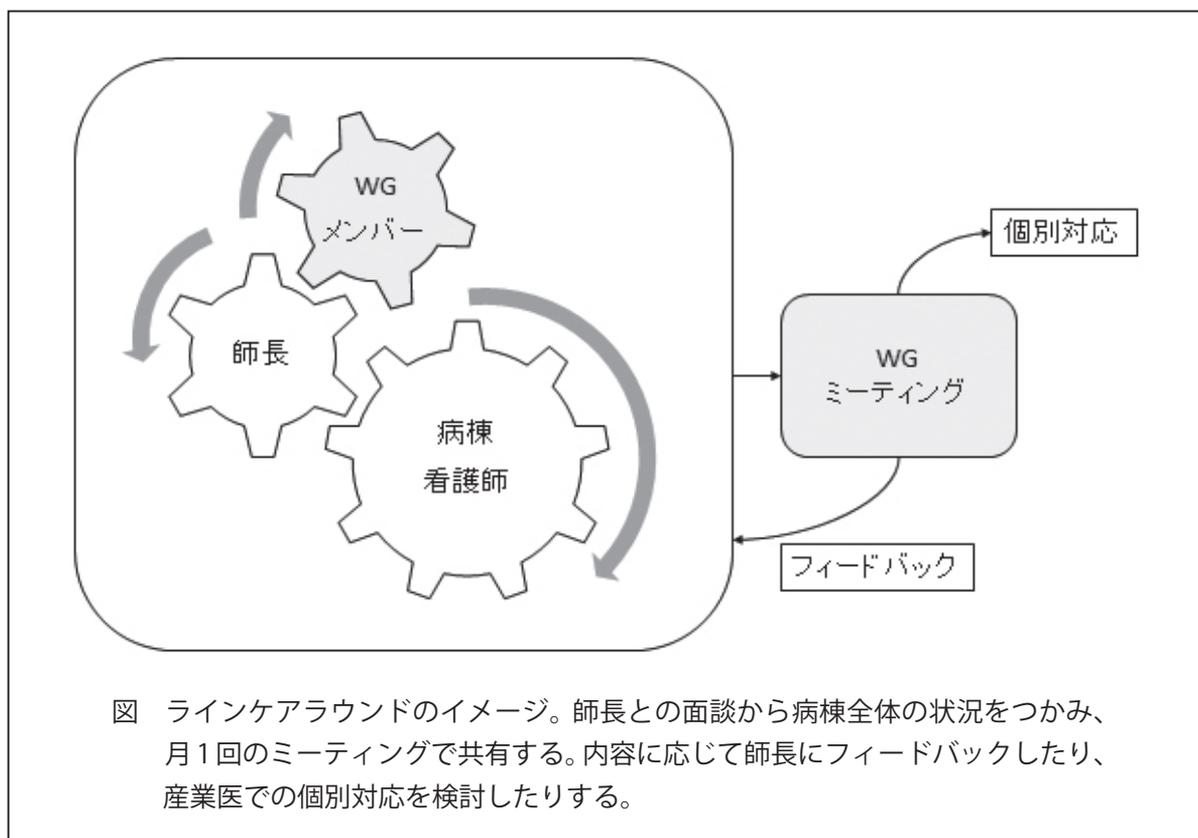
- 3) 月例会議では、特定個人の問題追及にならず、病棟の職場風土など、職場環境の改善につながる広い視野での議論が進むことが理想的です（特定個人の問題は、個別対応を別途検討します）。

ラウンドの概念図を図に示す。内容を見て頂いてわかるように、ラウンド自体は「ピアサポート」（同じような課題に直面する人同士が互いに「支え、支えられる」関係）の側面があり、支援を受ける師長が比較的緊張せずその時々困りごとを話せるという利点がある。ラウンドは基本的には傾聴の場であるが、緊急性が高いと判断されれば産業医に連絡するなどの対応を

とっている。

通常のラウンドでは担当部署の師長と直接面談していたが、今年度は COVID-19 感染対策を考慮して、電話での情報共有とする場合もある。各部署師長（師長不在時は主任）からの情報は月1回の定例会議で発表され、WGメンバー内で共有する。師長から聞き取る情報は個人情報に伏せられた形であるが、内容から個人が特定される可能性が高い案件もあることから、WG内での守秘義務については徹底するように心掛けている。

話題として多く挙がるのは、病休からの復職者、異動者、新人、といった不調になりがちな職員の動向である。定例会議では職場風土や部署をまたいで共通するテーマに焦点を当て病院全体の問題として検討し、個別性の高い案件は産業医が対応している。さらに、MH不調にまで至らないが、心理的負担となる出来事が生じている場合には、問題の改善に役立ちそうなアイデアをWGで出し合って、当該部署の師長にフィードバックすることもある。



COVID-19の感染拡大に伴って、WGにおいても関連した話題が多く聞かれた。例として個人防護具の問題(物資の不足、着脱手技のトレーニング)、人事(配属先)を含めた病院の診療体制の急激な変化、新人教育や他の教育・研究活動の制限、がある。このうち、新人教育に及ぼす影響は非常に大きかった。例えば当院で例年は週1回開催している新人研修は密を避けるために中止となり、新人看護師の「横のつながり」を持つ機会が極端に減少した。その結果、一部には入職後の悩みを一人で抱え込んでしまう事例も認められた。逆に、管理職側では、2020年度に本来計画していた研究や教育に関する業務が次々と中止になったことでの戸惑い

も聞かれた。COVID-19の影響というどうしても「新たに生じたもの」に目が行きがちであるが、本来の目標達成ができないという「実行機会が失われた」ことも心的負担につながっていることを実感している。

当院ではラウンドを継続することでMHの重要性をより多くの職員が理解し、職場環境の改善について検討する機会となっている。COVID-19関連に特化したMH支援が重要なのは当然であるが、常日頃からの取り組みが非常事態時の対応力につながることを実感している。本稿が貴院でのMH関連活動のヒントとなれば幸いである。

メンタルヘルス
mental health

福岡大学病院におけるCOVID-19チーム スタッフ・サポートプロジェクトについて

福岡大学医学部
精神医学教室 講師

衛藤 暢明

1. はじめに

2020年3月以降の新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染拡大の影響を受け、当院でも患者の受け入れを行うようになった。当初より未知のウイルスによる感染症であったことから、対応する医療スタッフへの精神的ストレスの増大が予想された。2020年4月より医師、看護師、心理士を含む精神科スタッフを中心に、COVID-19患者受け入れ病棟の看護スタッフに対して精神的なサポートを行う目的で「COVID-19 チーム スタッフ・サポートプ

ロジェクト」を開始した。本稿ではその概要について報告する。

2. 心理教育と心理スケールによる 評価の実施

当初、COVID-19患者を受け入れていた病棟は主に2つあり、軽症～中等症の患者を対象とした病棟はすでに1ヶ月程度患者の受け入れを継続していた。5月初旬頃より、まず医師・看護師に対して、心理教育を行った。心理教育の中で、ウイルスそのものによって引き起こされ

るストレス、心理的影響と不安・恐怖の伝播、社会的影響とそこでの制約、医療者に起こるストレスに生じる心身の反応、ストレス軽減の方法、専門的ケアが必要な場合の基準と連絡窓口の紹介などについて、パンフレットを作成して短時間のレクチャーを行った。同様の心理教育を COVID-19 重症患者の受け入れ病棟とその部署に関連するスタッフに対して順次、実施した。これまでの危機介入・緊急支援の経験から、部外者として集団への支援を目的とした活動を行う場合に、直接支援に関わるスタッフが顔を見せて自らの言葉で説明する必要があるとの認識から、筆者が直接病棟に出向いて説明を行うことを繰り返した。合わせて、COVID-19 対応スタッフが、自分自身の心理状態について客観的な指標で測って知っておくことを目的として、心理尺度の実施協力を依頼した。また、これにより特に状態の心配されるスタッフのスクリーニングを行うことも意図しており、そのことも説明した。実施した心理尺度はいずれも自記式の心理スケールで、以下のものであった。

- ① ベック抑うつ質問票 [SDS] (Zung, 1965)
- ② 状態-特性不安尺度 [STAI] (Spielberger, 1966)
- ③ 精神健康調査票 [GHQ] (Goldberg, 1978) (中野, 大坊, 1987)

それぞれ、抑うつ、不安、全般的精神症状に関して点数化して表現するものであり、結果に関して理解しやすいものを選び、また日常の精神科臨床でも頻用されるものを使用した。これらの結果に関しては各自に結果報告用紙を作成してフィードバックを行った。

3. 心理スケールの評価の結果

上記のような手続きで看護師に対して実施した心理スケールの結果から、COVID-19 の対応している中で相当な精神的ストレスが生

じていることが明らかになった。特に GHQ 精神健康調査で、何らかの問題を抱えていることが考えられる GHQ28 得点の合計が6点以上の者が、全体の68%を占めていた。重症の COVID-19 患者の受け入れ病棟の看護師だけを見ると GHQ28 得点合計6点以上の者が85%を占めていた。下位項目を見ると、もっとも多い症状が「不安と不眠」(3点以上が80%)であり、「身体的症状」(3点以上が76%)がそれに続いた。GHQ が健常者を対象にすることの多い鋭敏な心理尺度であるとはいえ、この結果は当初の予想をはるかに超えるものであった。

4. コンサルテーション・グループの実施

前述のように心理スケールでみた場合の精神的ストレスがきわめて高かったことから、重症の COVID-19 患者受け入れ病棟の看護スタッフを中心とした定期的なグループでの話し合いを実施することに決めた。週2回、1回30～60分、毎週同じ曜日・開始時刻の定期的な開催とした。参加に関しては自由とし業務終了後の時間に合わせて実施した。このような形式のグループでの話し合いは、心理的(精神力動的)な理解をもとに運営される精神科ユニットではしばしば行われる。テーマは決めず、参加者は誰からでも、どんなことでも発言して良いが、その内容については別の場所では話さない、とのルールのもとで実施する。毎回筆者が参加し、コンダクター(司会のような役割)を務めた。

当初、このような枠組みを初めて体験する看護スタッフにとっては、何をやる場所なのか、何を目的に行っているのか見当がつかないこともあったようであった。しかし、続けているうちにそれぞれの思いを語る場になっていった。本稿で詳細について述べることは控えるが、そこで明らかになったのは、さまざまな水

準での「分断」であった。非常に強い使命感を持って業務に取り組む一方で、日々の生活での孤立や不安、周囲の人々への不信や不満などが語られた。このような語りが出てくることは、必ずしも組織全体のネガティブな側面や未熟さを意味しない。むしろ、組織に属する個々のメンバーが、何を感じ、考えているかについて意識する（＝言語化する）ことで、立場を異にする相手に対して肯定的態度を養い、他者に対する受容的態度を回復する契機となる。グループの中では、少なくともそのような動きを見せることが増え、もともとあった集団としてのまとまりや機能を回復する一助にはなっていたように感じられた。

このような取り組みは、いわゆる第2波の終わる10月ごろまで続け、COVID-19に対する治療構造と組織の変更が生じたところで一旦休止した。

5. 環境および集団のニーズの変化と困難

COVID-19によってもたらされる現場のスタッフへの精神的負荷は、絶えず変化する。また、COVID-19の患者数の変化に伴って治療環境も変化し、また集団としてのニーズも変化することを経験してきた。このような点が、例えばある程度の時間的な経過が予測可能な大規模災害のような場面での支援とまったく異なる部分である。今後、COVID-19の趨勢により必要なサポートも変わってくるものと考えられる。特に経過が長期化すればするほど、影響を受ける人々が増えていくことになるだろう。今回のプロジェクトでは、縦断的に心理的な評価を実施し、その時に必要なサポートを提供できるようにしたいと考えている。

6. もう一つの背景

当初より、精神科のリエゾン診療においては、COVID-19の対応をしているスタッフのメンタルヘルスの支援以外に、COVID-19そのもので生じる精神障害（せん妄のほか、2次的に生じる不安・抑うつ、不眠など）への対応も求められることが予想された。このため、当院では精神科スタッフをスタッフのサポートを行うチームと、COVID-19患者に対応するチームを分けた。これにより、診療科としてのまとまった機能を保ち、一人の精神科医が全ての問題を抱える状況を避けたことは、活動を維持する上で重要な判断であったと、振り返った際に思う。

医療現場だけでなく、世界のさまざまな場所・領域で、分断が起こり、あらゆるリーダーが成功し得ない困難な状況にある。さらに未知のウイルスによって生じる不安は、原初的な不安を引き起こし、未分化な感情や病的な心性を生む。それにより他罰的、被害的、万能的、猜疑的、利己的、スプリット（“良い-悪い”を極端に単純化して分ける、敵味方に分ける）がさまざまな場面で起きてくるために、現象を正しく理解し続ける思考の枠組みや現実的な支援のシステムが必要であると考えられる。

7. おわりに

COVID-19は、これまでにない事態を医療のみならず社会全体に引き起こしている。このような事態であるからこそ、それぞれの個人や医療機関、さまざまな連携機関が孤立しない、協働するあり方を模索すべき状況ともいえる。その中で最も苦しい状況を支え続けているCOVID-19に対応する医療者への温かい眼差しが向けられるよう社会に発信を続けたい。

病院の課題

済生会二日市病院
院長

壁村 哲平

済生会二日市病院院長を令和2年4月拝命いたしました壁村と申します。

簡単ですが自己紹介をさせていただきます。出身は大分県日田市上津江町（旧日田郡上津江村：カメルーンが来た中津江村の隣村でオートポリスがある超過疎地）。1982年順天堂大学医学部卒業後直ちに九州大学第3内科入局（消化器研究室）、1993年済生会福岡病院入職し同院副院長を11年経験させていただき、2012年福岡市医師会成人病センター院長、2018年4月福岡大学病院への移譲を機に、同月済生会二日市病院副院長（院長代行）に赴任し2020年4月より現在に至ります。福岡市医師会理事や同医師会勤務医会理事を経験し、福岡県病院協会には前病院院長就任時に加わり、現在は企画担当理事を担当しています。

済生会二日市病院は、昭和22年に引揚者等の救済のために済生会福岡病院の分院として設立され、その後急性期医療と福祉を柱に地域医療の一翼を担い、さらに福祉施設と病院を統合した二日市医療福祉センターとして保健・医療・福祉に取り組み、特に病院は2次救急告知病院、災害拠点病院、地域医療支援病院を取得し、筑紫医療圏の唯一の公的病院として、さらに管理型医師臨床研修指定病院として現在に至っています。

今回の赴任では、地域医療の充実発展と育てて頂いた済生会への恩に報いることができれば幸いと思っています。よろしく願い申し上げます。

当院に赴任後の課題と取り組みを紹介させていただきます。

就任時の当院は、数年前より消化器内科医師

が不在で地域医療に貢献すべき病院機能が大幅に低下し、収益同様に職員の連帯感も希薄で部分最適が各部署で構築されたような状態でした。直ちに全職種の幹部職員との面談を行い、部分最適ではなく全体最適であること、作業でなく仕事をするものの理解を求め、目指す病院像は済生の精神を持ち急性期救急医療を中心とした地域医療貢献を柱とする教育病院であると提示しました。外来は紹介と専門医療を中心とし「100%返患：紹介医に100%戻すことを目指すこと」を徹底すること、断らない救急外来や手術を含む入院医療を最上位とすることを全職員に向け周知を図り、その目安として積み上げ式の数値目標（KPI）を提示し、副院長・診療統括部長を責任者とした5大プロジェクトを立ち上げました。

- ① 外来検査体制の充実（CT800件/月、MRI400件/月）
- ② 外来診察体制の整備（日勤帯紹介患者1000名/月、35日以上長期処方削減）
- ③ 救急受け入れ態勢の強化（救急車300台/月、新入院患者500名/月）
- ④ 手術室の円滑でかつ安全な活用（手術件数130件/月）
- ⑤ 病診連携と広報

プロジェクトの進行状況を可視化するため院内ポータルで毎日KPIの値を表示し、毎月の運営会議で討議を重ね、病診連携と広報では、病院主催の連携の会や医師向けの広報誌を発行し、地域連携室の強化を図り活性化に注力しました。その間、救急科を立ち上げたこと、久留米大学病院関連教育病院の認可、九州大学病院

とのたすき掛け方式で初期臨床研修医2名を受け入れたことで新たな病院の兆しが見え始めました。しかし、多くの項目で明確な改善が得られず、職員が病院の現状を自分事として捉えることが乏しいと強く感じたため、院長就任前の令和元年12月より現在の執行部とネクストキャビネットを立ち上げ、病院像や病院の運営方針、さらに組織図の再検討を行い、副院長の職務分掌や責任を明確にし、委員会の再整備を進めました。さらに、幹部医師のパフォーマンス・レビュー（ほぼ360度評価）の実施や外部コンサルトの導入なども計画し、下記の通り病院の理念と基本方針を新たにすることで病院像や求められる職員像を伝達することといたしました。

〔病院理念〕

『患者さんのために』 一人ひとりの価値観を尊重し信頼される医療を目指して

〔基本方針〕

1. 急性期から福祉サービスまで切れ目のない医療を提供し、積極的に地域医療に貢献します。
2. 的確な医療情報を提供し、選択と納得に基づく医療を提供します。
3. 個人情報を適切に取り扱い、安全・安心で良質な医療環境を提供します。
4. 時代の変化に対応できる組織と信頼される医療人を目指し、日々の研鑽に努めます。

本来ならば、理念や基本方針の徹底を図りたかったのですが、スタートより新型コロナ対策が最優先課題となりました。職員には、感染対策を徹底すること（ガイドラインの徹底）、感染を持ち込まない事（誠実であること）を機会があるごとにお願ひし、新5大プロジェクト(⑤)に変更し病棟管理体制の強化)への取り組みは上四半期にはほぼ停止した状態となり最悪の経営状態でしたが、新型インフルエンザ協力病院であることで今回の新型コロナ感染に対して協

力依頼があり、新型コロナ病床の設置と検査・受け入れ体制など整え、11月23日まで疑い患者187名、陽性患者87名の入院患者を受け入れてました。その間、職員とその家族に発症者を見ることはなく職員に大変感謝しています。予想に反して第2四半期以降、多くの職員が病院の発信する情報に強く注意を払い新5大プロジェクトに積極性にへ取り組み達成項目も徐々に増加しました。現在は再度理念や基本方針の徹底を図る目的で若手リーダーを中心に面談を行ない、また、彼らを中心にKJ法を取り入れた研修会も計画しています。令和2年11月に筑紫地区企業同和問題推進委員会の幹事企業（当院事務長が会長）となり、研修会など企画しています。病院理念にある“一人ひとりの価値観を尊重し”が意味する多様性を理解する良い機会になるものと期待しています。

病院の経営の課題は、各病院異なる課題があり対策もまた異なると思いますが、職員の心を一にすることの困難さはいかがでしょうか。長く病院管理に携わってまいりましたが一筋縄ではいかない課題と感じ、今はただ、周回遅れでも先頭集団に離されないようこの様に藻掻いている状況です。ご助言を頂ければ幸いです。

新型コロナ感染症対策や働き方改革など多くの課題が山積していますが、令和3年が皆様にとってご健勝で幸多き年となりますようお祈り申し上げます。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。



ウシ、丑、ビーフそして牛痘

国立病院機構九州医療センター 名誉院長 朔 元 則
学校法人原学園看護専門学校 名誉校長

ウシの呼称

最近では1月号のLetterではその年の干支に関する話題をテーマに取り上げているので、今年のLetterもウシから始めさせていただく。

ウィキペディアによると、ウシ(牛)は動物学的には哺乳綱鯨偶蹄目ウシ科に分類される動物で、広義ではウシ属に含まれるアフリカスイギュウやバイソン等もウシと呼ばれるが、狭義では家畜種のウシ(学名 *Bos taurus*)を指した呼称ということである。

牛は性別によって呼称が異なることが特徴の一つで、雄(オス)は日本語では牡牛(おうし)と書き、英語では bull、ox(去勢された牡牛)、ラテン語では taurus と呼称される。これに対し、雌(メス)は日本語で牝牛(めうし)、英語では cow、ラテン語では vacca となる。現在新聞紙上を最も賑わしているワクチン(vaccine)という言葉は、発明者のパストゥール(Louis Pasteur, 1822~1895)が牛痘法を開発したジェンナー(Edward Jenner, 1749~1823)に敬意を払って、牝牛という意味のラテン語 vacca から命名したものである。

ギリシャ神話に登場するクレタ島の迷宮に棲む怪物ミノタウロス(Minotaurus、英語名 Minotaur)は、クレタ島の王様であるミノス王の牡牛という意味である。

ウシの飼育

ウシが家畜化されたのはヤギやヒツジなどの小型動物に比べると遅く、約1万年前頃からではないかと言われている。しかし一度家畜化が始まると、ウシはその有用性から瞬く間に牧畜の中心的存在となっていった。2019年のデータでは、世

界の推定飼育個体数は約14億9200万頭で、第1位はブラジルの約2億1500万頭、日本は第64位で約382万頭ということである。

日本列島でウシの飼育が始まったのは古墳時代と言われており、奈良県御所市の南郷遺跡(5世紀の古墳と考えられている)から出土した牛骨が最も古いものではないかと考えられている。弥生時代の貝塚である東京都港区の伊皿子貝塚から牛骨が出土したという記録もあるようだが、これは後代に混入した可能性が大きいと考えられている。魏志倭人伝にも「牛馬ナシ」という記載があるので、少なくとも卑弥呼はウシもウマも見たことがないと考えて良いようである。

日本におけるウシは、当初から農耕用や牽引用の役畜としての使用が主体であったが、少しは食用としても供されていたようである。しかし675年、時の天武天皇は詔勅によって牛、馬を食することを禁止した。それ以来「四つ足のものを食べるのは穢れである」という考えが日本国民の中に定着し、明治維新まで1200年もの長きに亘って続いてきたことは皆様よく御存知のことであろう。

ビーフはフランス語由来の言葉

孫娘の大学受験用参考書(ナビゲーター世界史、鈴木敏彦著、山川出版社2016年刊)に何げなく目を通していた時、私は大変興味ある記述が目にとまった。それは牛肉を意味する英語 beef はフランス語由来であるという記述である。牛肉という言葉は英語に直訳すれば cow meat あるいは bull(ox) meat となっても良さそうであるが、食用に供される牛の肉はビーフ(beef)であり、これはフランス語の牛という意味の単語 buef に由来しているのだそうだ。

英国史を繙くと、1066年にノルマンディー公

ウィリアムが騎兵部隊の活躍でヘースティングズの戦いに勝利し、先住のアングロサクソン系勢力を征服してしまったと書かれている。ウィリアムはウィリアム1世（在位1066～87年）と名乗ってイングランドを統治したのであるが（ノルマン朝の成立）、この時、貴族、聖職者から軍人、商人に至るまで、ノルマン朝の指導者の地位についたのはウィリアムに従ってイングランドに渡って来たフランス人であった。その後約200年間に亘ってイングランドの上流階級はフランス語を使い、それまでの英語は下層階級の言葉となってしまったのだそうである。

つまり美味しい牛肉を食べるのは征服したフランス系の人達で、牛の世話をするのは征服されたアングロサクソン系の人達という構図が出来てしまったのである。同様の事が豚肉に関しても言うことが出来て、pigは古くからの英語であるが、これが肉となるとフランス語由来のporkになるのである。鈴木氏は「言葉の中に見事に征服者と被征服者の関係が表れている」と記述しておられるが、私には大変興味ある話であった。

歴史に名を残した牛

「歴史に名を残した馬を列挙せよ」と問われれば困ることはないが、これが牛となるとハタと困ってしまう。平安時代、権力者藤原道長や天皇の牛車を牽引する役割は、多分同じ牛が担っていたと私は想像しているのであるが、残念ながらその牛の名前などはどこにも残っていない。

歴史にその名を留めている牛は私が知る限り唯一頭、その名はブロッサム（Blossom）。花が咲くという意味の名前を持った牛であり、その肖像画もジェンナー博物館に展示されている。私は本物は見た事はないのであるが、写真で見る限り茶色の痩せた牝牛で乳房も実に貧弱である。

英国南西部の田舎町パークレーの開業医ジェンナーは、「牛痘に感染した者は天然痘には罹患しない…」という村人達の話聞き、いつか機会があればそれを試してみたいと考えていた。そして1796年5月14日、ジェンナーの医院を手首に牛痘疹を発症したサラ・ネルムズという乳搾りの

娘が受診したのである。ジェンナーはサラの手首の牛痘疹から採取した膿をジェイムズ・フィップスという8歳の少年の腕に接種した。私が少年時代に読んだ偉人伝では「ジェンナーは自分の子供に牛痘ウイルスを接種した…」と書かれていたように記憶しているが、実際は召使いの子供だったようである。接種後1ヶ月半が経過して、ジェンナーは本物の天然痘ウイルスをフィップス少年に接種してみたが、少年は発症しないのである。免疫（その時代は免疫という概念はなかったが）が成立していたのである。牛痘法の開発によって、太古の昔から人類を悩まし続けてきた天然痘ウイルスが、地球上から姿を消したのは誰もが知っている歴史である。

乳牛と言えば私達一般人が連想するのは、白黒の斑点を持ち、丸々と太って大きな乳房を持つホルスタイン種の牛である。ジェンナーの生誕250年を記念して1999年に発行された記念切手にも、堂々たる乳房を持った太ったホルスタイン種の牛がデザインされている（黒い斑点がジェンナーの姿になっているのは秀逸であるが…）。

しかし実際のブロッサムは茶色の痩せた牛として描かれており、私は何となく違和感があるままに本稿を執筆していた。しかし思いがけないことからこの疑問が氷解した。2020年12月のロータリークラブの例会時に配布されたロータリーの友（vol.68 No.12, 2020）にその解答が書かれていたのである。玉名市で牧場を経営しておられる矢野希実氏の紹介記事の中で、ブロッサムとそっくりの茶色の乳牛の写真が掲載されていたのである。矢野氏の解説によると、この牛はジャージー種という牛で、人間による改良という手が全く入っていない種なのだそうだ。飼料も配合飼料ではなく牧草のみを使用しているので、肥満体ではないということであった。225年前、英国で飼育されていたのはこのジャージー種の乳牛だったのではないだろうか…。

丑年の今年、私はCOVID-19の早期終息を祈念して年賀状にブロッサムの写真を揚げた。令和3年が気淑く風和ぐ（新春令月 気淑風和）平穏な1年になることを心から願っている。

色失へる

元 医療法人誠十字病院 安田 宏一
平衡神経科 医師

手燭して色失へる黄菊かな

与謝蕪村の俳句である。ろうそくの黄色い光で見ると、黄色い菊の花が、白っぽく見えたのである。さすが、するどい観察眼である。手燭は、移動用のろうそく立てである。

ところが、清少納言の枕草子に、こんな記述を見つけた。「火かげにおとるもの。灯の下で光をうしなうもの。紫の織物。藤の花。」

蕪村は江戸時代、1800年ごろの人である。一方、清少納言は平安時代、1000年の人である。清少納言の方が、800年ほど古い。しかも、光源によって、対称の色が変わるとい

うことに、すでに気付いていたとは、驚きである。蕪村の明かりはろうそくであり、清少納言の場合は菜種油であった。菜種油を皿に入れ、灯芯に火をつけると、焰が紫色だったと思われる。

これと同じような経験を、わたしもした。自動車で高速道路を走っていた。トンネルに入ると、今まで黄色く見えていた追い越し禁止の線が、白くなった。トンネル内の照明が、黄色だったからである。

文献1) 蕪村俳句集、岩波文庫、1989年

2) 大庭みな子「現代語訳 枕草子」
岩波現代文庫、2014年



A



B

灯台 (A) と手燭 (B)
(平凡社「世界大百科事典」灯火・ぼんぼりの項 1955年)

人体旅行記 乳房（その一）

国立病院機構 都城医療センター 院長 吉住 秀之

背中から再び腹側の方へ回りつつ頭の方へ向かうと、二つの穹隆部が迫ってきます。乳房の連山です。

古来歌を詠むことで事を行ってきたわが国では、「母」にかかる枕詞は「垂乳根たらちねの」であり、「チチ」こそは女性、とりわけ乳飲み子に乳を与えることができる母を表すものでした。乳を与えるのに垂れては使い物にならないのではないかという極めてまっとうな私の疑問に対して、古典の先生は、この「垂」というのは「足る」のことなのだと教えてくれました。垂乳根とは乳が満ち足りている状態を指す¹⁾のであり、これならば納得です。「母」という漢字も、女性を意味する字形に乳房を示す点を二つ加えたもの、すなわち乳房を持っていることを象ったものから生まれています。

では「チ」とは何かというと、「靈力」を指す語根です²⁾。古代から豊満な乳房は、豊穡と多産の象徴であり、生命を育む靈力を宿したものと解釈されていたのです。

目を西方に転じてみても、エジプト神話の恵みの女神イシスは、息子のホルスに乳を与える姿で描かれ、ヴィーナスの前身とされるシリア神話の豊穡の女神アスタルテ、バビロニア神話のイシュタルは豊満な乳房をもつ姿で描かれています。インドの聖典によれば釈迦の母であるマーヤの乳房からは乳の海が生まれたそうです。ローマの女神ユーノーの乳房から迸った乳は天空に弧を描き天ノ川 milky way、galaxy ができたという神話を耳

にした方も多いでしょう。そもそもこの迸った乳は、ゼウスが密通してアルクメーネーとの間に生まれたヘーラクレースに不死の力を与えようとして、（大胆にもほどがあると思うのですが）睡眠中のヘーラーの乳を吸わせたことがきっかけでした。ヘーラクレースは強くヘーラーの乳首を吸ったため、突き飛ばされてしまいますが、そのとき飛び散った乳が天の川になったということです。内科医としては、乳汁分泌があったということは、ヘーラーは出産後であったのか、病的な乳汁漏出（galactorrhea）であったのかが気になることです。

- 1) 我が母よ死にたまひゆく我が母よ我を生まれ乳足らひし母よ（斎藤茂吉『赤光』）という短歌も作者を生んだ時の母が「乳足らひし」状態であったと解されます。「満ち足りる」という言葉に関連することとして大地と人のオリエンテーションでいえば、「君子は南面す」といわれるように南の方角に顔を向けて立つのが基本とされており、日が東から昇って「日」「足る」ようになるのが「ひだり」の方角となります。
- 2) 松村武雄（1958年）「日本神話の研究 第4巻 第4章 古典神話に於ける靈格観」によれば、記紀にでてくる火の神カグツチ（加具土命）の“チ”や水神や蛇の主の意味で使われるミヅチ（蛟）の“チ”、雷を表すイカヅチの“チ”と同じものです。それほどチチを持つ存在は、古代から恐れ敬うべき対象であったということがわかります。したがって世の男性が自分の配偶者を「かみさん」という言葉で指示するのも、その「靈力」を恐れてのことだと思われれます。対して「父（チチ）」は“チ”が二つもあるのにこの靈力の下落には目を覆うばかりのものがあります。

令和2年12月 福岡県私設病院協会の動き

◎看護部長会運営委員会

日時 12月4日(金)午後3時

場所 協会会議室

議題

1. 協議事項

(1) 勤務環境改善について

(2) その他

2. 報告事項

(2) 研修会について

(3) 地域医療構想について

(4) 新型コロナウイルス感染症対応について

(5) 医師の働き方改革について

(6) 60周年記念行事準備について

3. 報告事項

(1) 私設病院協会 (2) 看護学校

(3) 医療関連協業組合 (4) 関係団体

(5) 令和2年度第1回救急医療情報システム
推進委員会 (10/30)

◎広報委員会

日時 12月8日(火)午後3時45分

場所 協会事務室

議題 福私病ニュースの編集について

◎第9回理事会

日時 12月8日(火)午後4時

場所 会議室

議題

1. 会長あいさつ

2. 協議事項

(1) 会員異動について

◎研修会

日時 12月11日(金)午後4時

場所 天神スカイホール メインホール

演題 「地域医療構想の進め方 ～地域医療
構想ワーキンググループの進捗状況～」

講師 (一社)日本医療法人協会 会長代行
厚生労働省「地域医療構想WG」構成員
(社会医)大雄会 理事長

伊藤 伸一 氏

参加数 34施設 63名

医療・福祉、介護など全ての医療環境をサポートします

サービス内容

- ・医療機器、医療器具、医療消耗品の販売
- ・病院給食に関連した業務用食材及び厨房機器等の販売
- ・病院、介護施設に関する工事及び物品の販売
- ・臨床検査・水質検査・検便検査から食中毒検査などの検査
- ・看板、チラシ、インターネット等を利用した広告作製

これまで培ったノウハウを生かし、開業前の構想～開業後の施設経営まで九州・沖縄の医療機関、介護施設などの経営を全力でサポートいたします。

有限会社 DMS

(ドリーム・メディカル・サービス)

〒810-0005 福岡県福岡市中央区清川3丁目14番20号3F
TEL:092-525-7666・7667 FAX:092-525-7668

福岡県精神科病院協同組合

〒810-0005 福岡県福岡市中央区清川3丁目14番20号2F
TEL:092-521-0690 FAX:092-524-4632

謹賀新年

今年が良い年になりますように
お祈り申し上げます。

2021 (令和3) 年1月



九州大学病院
KYUSHU UNIVERSITY HOSPITAL

病院長 赤 司 浩 一

〒 812-8582
福岡市東区馬出3丁目1番1号
電話 (092)641-1151 FAX (092)642-5008
URL <http://www.hosp.kyushu-u.ac.jp>



久留米大学病院
KURUME UNIVERSITY HOSPITAL

病院長 志 波 直 人

〒 830-0011
久留米市旭町67番地
電話 (0942)35-3311(代) FAX (0942)32-6278
URL <http://www.hosp.kurume-u.ac.jp>
E-mail kanrika@kurume-u.ac.jp



福岡大学病院
Fukuoka University Hospital

病院長 岩 崎 昭 憲

〒 814-0180
福岡市城南区七隈七丁目45番1号
電話 (092)801-1011 FAX (092)862-8200
URL <http://www.hop.fukuoka-u.ac.jp/>



国家公務員共済組合連合会
浜の町病院
HAMANOMACHI HOSPITAL

病院長 一 宮 仁

〒 810-8539
福岡市中央区長浜3丁目3番1号
電話 (092)721-0831 FAX (092)714-3262
URL <https://www.hamanomachi.jp>
E-mail info@hamanomachi.jp

医療法人 **原三信病院**
Harasanshin Hospital

理事長 **平 祐 二**
院長 **原 直 彦**

〒 812-0033
福岡市博多区大博町 1 - 8
電話 (092)291-3434 FAX (092)291-3424
URL <https://www.harasanshin.or.jp/>

 医療法人 **つくし会病院**

理事長 **中 村 奎 吾**
院長 **脇 坂 愛次郎**

〒 816-0902
大野城市乙金 3 丁目 18 番 20 号
電話 (092)503-2261 FAX (092)503-2474
URL <http://tsukushi-kai.com/>
E-mail general-tsukushikai@awa.bbq.jp

医療法人 ユーアイ
西 野 病 院

理事長 **西 野 豊 彦**
院長

〒 820-0206
福岡県嘉麻市鴨生 532
電話 (0948)42-1114 FAX (0948)42-4790

 社会医療法人
製鉄記念八幡病院
STEEL MEMORIAL YAWATA HOSPITAL

理事長 **土 橋 卓 也**

〒 805-8508
北九州市八幡東区春の町一丁目 1 番 1 号
電話 (093)672-3176 FAX (093)671-9605
URL <https://www.ns.yawata-mhp.or.jp>
E-mail info@ns.yawata-mhp.or.jp

 医療法人 成康会
堤小倉病院

理事長 **堤 康 博**
院長

〒 802-0835
北九州市小倉南区大字堀越 358 番地
電話 (093)962-1950 FAX (093)963-1075
E-mail horiko@lime.ocn.ne.jp

 医療法人社団 益豊会
今 宿 病 院

理事長 **深 堀 元 文**
院長

〒 819-0167
福岡市西区今宿 2 丁目 12 番 7 号
電話 (092)806-0070 FAX (092)806-4417
URL <http://www.imajuku-hospital.gr.jp>
E-mail info@imajuku-hospital.gr.jp

 医療法人 共和会
小倉リハビリテーション病院

院長 梅 津 祐 一
名誉院長 浜 村 明 徳

〒 803-0861
北九州市小倉北区篠崎 1 丁目 5 番 1 号
電話 (093)581-0668 FAX (093)581-3319
URL <http://www.kyouwakai.net>



独立行政法人 国立病院機構

小倉医療センター

院長 山 下 博 徳

〒 802-8533
北九州市小倉南区春ヶ丘 10 番 1 号
電話 (093)921-8881 FAX (093)922-5072
URL <https://kokura.hosp.go.jp>



地方独立行政法人 福岡市立病院機構
福岡市立こども病院
Fukuoka Children's Hospital

院長 原 寿 郎

〒 813-0017
福岡市東区香椎照葉 5 - 1 - 1
電話 (092)682-7000 FAX (092)682-7300
URL <http://www.fcho.jp/childhp/>



社会医療法人財団 池友会

香椎丘リハビリテーション病院

KASHIIGAOKA REHABILITATION HOSPITAL

院長 松 尾 義 孝

〒 813-0002
福岡市東区下原 2 丁目 24 番 36 号
電話 (092)662-3200 FAX (092)662-3303
URL <http://www.kashii-rh.net>
E-mail info@kashii-rh.net



医療法人徳洲会
福岡徳洲会病院

Fukuoka Tokushukai Hospital

院長 乗 富 智 明

〒 816-0864
福岡県春日市須玖北 4 丁目 5 番地
電話 (092)573-6622 FAX (092)573-1733
URL <https://www.f-toku.jp>
E-mail ftokushu@csf.ne.jp



医療法人社団 久英会

高良台リハビリテーション病院

理事長 中 尾 一 久

院長 永 田 剛

〒 830-0054
福岡県久留米市藤光町 965 - 2
電話 (0942)51-3838 FAX (0942)51-3535
URL <http://www.kyueikai.jp>
E-mail kouradai-web@kyueikai.jp



国家公務員共済組合連合会

新小倉病院

病院長 塚本 浩

〒 803-8505
北九州市小倉北区金田1丁目3番1号
電話 (093)571-1031 FAX (093)591-0553
URL <http://www.shin-kokura.gr.jp>
E-mail kkr-shinkokura@shin-kokura.gr.jp



医療法人社団筑山会

松岡病院

介護医療院

ふくろうの森

理事長
院長
管理者

松岡 嘉宣

〒 821-0012
福岡県嘉麻市上山田 1287
電話 (0948)52-1105 (病院) FAX (0948)52-1926
電話 (0948)52-0577 (医療院)
URL <http://www.chikuzankai.com/>
E-mail mtok-sohmu@mx61.tiki.ne.jp



宗像医師会病院

MUNAKATA MEDICAL ASSOCIATION HOSPITAL

院長 伊東 裕幸

〒 811-3431
福岡県宗像市田熊五丁目5番3号
電話 (0940)37-1188 FAX (0940)37-0016



公益社団法人福岡医療団

千鳥橋病院

CHIDORIBASHI HOSPITAL

病院長 山本 一視

〒 812-8633
福岡市博多区5丁目18-1
電話 (092)641-2761 FAX (092)633-3311
URL <https://www.chidoribashi-hp.or.jp>



原土井病院

HARADOI HOSPITAL

理事長 原 寛
院長 野村 秀幸

〒 813-8588
福岡市東区青葉6丁目40番8号
電話 (092)691-3881 FAX (092)691-1059
URL <https://www.haradoi-hospital.com>
E-mail info@haradoi-hospital.com



医療法人 井上会

篠栗病院

SASAGURI HOSPITAL

理事長 陣内 重三
院長

〒 811-2413
福岡県糟屋郡篠栗町大字尾仲94番地
電話 (092)947-0711 FAX (092)947-0715
URL <http://www.sasaguri.or.jp>
E-mail info@sasaguri.or.jp



福岡県立精神医療センター

太宰府病院

Fukuoka Prefectural Psychiatric Center Dazaifu Hospital

院長 小嶋 享二

〒 818-0125
福岡県太宰府市五条3丁目8番1号
電話 (092)922-3137 FAX (092)924-4060
URL <https://www.dazaifu-hsp.jp>
E-mail info@dazaifu-hsp.jp



社会福祉法人 済生会支部

福岡県済生会福岡総合病院

院長 松浦 弘

〒 810-0001
福岡県中央区天神1丁目3番46号
電話 (092)771-8151 FAX (092)716-0185
URL <https://www.saiseikai-hp.chuo.fukuoka.jp>
E-mail byoin@saiseikai-hp.chuo.fukuoka.jp

社会医療法人 雪の聖母会

理事長 井手 義雄

聖マリア病院

病院長 島 弘志

〒 830-8543 福岡県久留米市津福本町422番地
電話 (0942)35-3322 FAX (0942)34-3115
URL <https://www.st-mary-med.or.jp/>

聖マリアヘルスケアセンター

病院長 井手 睦

〒 830-0047 福岡県久留米市津福本町448番5
電話 (0942)35-5522 FAX (0942)34-3306
URL <https://www.st-mary-health.jp/>



公立八女総合病院企業団

公立八女総合病院

院長 平城 守
〒 834-0034 福岡県八女市高塚540番地2
電話 (0943)23-4131 FAX (0943)22-3185

みどりの杜病院

院長 原口 勝
〒 834-0051 福岡県八女市立野362番地1
電話 (0943)23-0002 FAX (0943)23-0012

介護老人保健施設 回寿苑

施設長 須古 治男
〒 834-1215 福岡県八女市黒木町湯辺田270番地
電話 (0943)42-3131 FAX (0943)42-3111

※ホームページはこちらから→



地域医療支援病院 地域がん診療連携拠点病院



一般社団法人 福岡県社会保険医療協会

社会保険 田川病院

院長 黒松 肇

〒 826-0023
福岡県田川市上本町10番18号
電話 (0947)44-0460 FAX (0947)45-6540
URL <https://www.s-tagawa-hp-tagawa.fukuoka.jp>
E-mail syomuka@s-tagawa-hp-tagawa.fukuoka.jp



独立行政法人 地域医療機能推進機構
Japan Community Health Organization : JCHO

福岡ゆたか中央病院

Fukuoka Yutaka Central Hospital

院長 松本 高宏

〒 822-0001
福岡県直方市大字感田523番地5
電話 (0949)26-2311 FAX (0949)26-6748



365日 24時間 救急外来対応 (救急告示病院)
日本医療機能評価機構認定病院

医療法人 **貝塚病院**

理事長 **庄 司 哲 也**
院長 **川 口 信 三**

〒 812-0053
福岡市東区箱崎 7 丁目 7 番 27 号
電話 (092)632-3333 FAX (092)632-2230
URL <http://www.kaizuka-hosp.or.jp>



社会福祉法人
バプテスト心身障害児(者)を守る会
久山療育園重症児者医療療育センター

理事長 **宮 崎 信 義**
センター長 **岩 永 知 秋**

〒 811-2501
福岡県糟屋郡久山町大字久原 1869
電話 (092)976-2281 FAX (092)976-2172
URL <http://hisayama-smid.jp>
E-mail hisayama@hisayama-smid.jp



医療法人 恵光会 **原病院**
HARA HOSPITAL

理事長 **久 原 伊知郎**
院長

〒 815-0042
福岡市南区若久 2 丁目 6 番 1 号
電話 (092)551-2431 FAX (092)561-0589
URL <http://www.hara-hospital.com>



独立行政法人 **福岡病院**
国立病院機構
NHO Fukuoka National Hospital

院長 **吉 田 誠**

〒 811-1394
福岡市南区屋形原四丁目 39 - 1
電話 (092)565-5534 FAX (092)566-0702
URL <https://fukuoka.hosp.go.jp>

医療法人社団福光会
福田眼科病院

理事長 **福 田 恭 江**
病院長 **江 島 哲 至**

〒 814-0013
福岡市早良区藤崎 1 丁目 24 番 1 号
電話 (092)841-2345 FAX (092)841-2649
E-mail fukudaganka@nifty.com



地方独立行政法人 福岡市立病院機構
福岡市民病院

院長 **桑 野 博 行**

〒 812-0046
福岡市博多区吉塚本町 13 番 1 号
電話 (092)632-1111 FAX (092)632-0900
URL <http://www.fcho.jp/shiminhp/>
E-mail shiminbyoin@fcho.jp



福岡大学西新病院

Fukuoka University Nishijin Hospital

病院長 三浦 伸一郎

〒 814-8522
福岡市早良区祖原 15 番 7 号
電話 (092)831-1211 FAX (092)831-3398
URL <https://www.nishijin.fukuoka-u.ac.jp>

飯塚病院

innovate and evolve

院長 増本 陽秀

地域医療支援病院
救命救急センター
臨床研修指定病院
地域がん診療連携拠点病院
総合周産期母子医療センター
ISO9001 認証取得

〒 820-8505
飯塚市芳雄町 3 番 83 号
電話 (0948)22-3800 FAX (0948)29-5744
URL <http://aih-net.com>



医療法人社団 広仁会

広瀬病院

～こころのつながりを大切にします～

理事長 古賀 稔 啓

〒 810-0004
福岡市中央区渡辺通 1 丁目 12 番 11 号
電話 (092)731-2345 FAX (092)771-6517
URL <http://www.hirose-hp.or.jp>



社会福祉法人 済生会支部

福岡県済生会二日市病院

院長 壁村 哲平

〒 818-8516
福岡県筑紫野市湯町三丁目 13 番 1 号
電話 (092)923-1551 FAX (092)924-5210
URL <http://www.saiseikai-futsukaichi.org>



公益社団法人

地域医療振興協会 飯塚市立病院

Iizuka City Hospital

管理者 武 富 章
兼院長

〒 820-0088
福岡県飯塚市弁分 633-1
電話 (0948)22-2980 FAX (0948)24-3812
URL <https://iizukacityhp.jp/>



公立学校共済組合

九州中央病院

Kyushu Central Hospital of the Mutual Aid Association of Public School Teachers

病院長 前原 喜彦

〒 815-8588
福岡市南区塩原三丁目 23 番 1 号
電話 (092)541-4936 FAX (092)541-4540
URL <http://kyushu-ctr-hsp.com>



北九州市立
医療センター

Kitakyushu Municipal Medical Center

理事長 中西 洋 一
院長 中野 徹

〒 802-8561
北九州市小倉北区馬借二丁目 1 - 1
電話 (093)541-1831 FAX (093)533-8693
URL <https://www.kitakyu-cho.jp/center/>



独立行政法人 国立病院機構
福岡東医療センター

院長 中根 博

〒 811-3195
福岡県古賀市千鳥 1 - 1 - 1
電話 (092)943-2331 FAX (092)943-8775
URL <https://fukuokae.hosp.go.jp/>
E-mail 605-shomu@mail.hosp.go.jp



社会医療法人 喜悦会
那珂川病院

理事長 下川 敏 弘
院長 吉村 寛 志

〒 811-1345
福岡市南区向新町 2 丁目 17 - 17
電話 (092)565-3531 FAX (092)566-6460
URL <http://www.nakagawa-hp.com>



医療法人社団 江頭会

さくら病院

理事長 江頭 啓 介
院長

〒 814-0143
福岡市城南区南片江 6 丁目 2 番 32 号
電話 (092)864-1212 FAX (092)865-4570
URL <http://www.sakurahp.or.jp>

福岡赤十字病院

日本赤十字社

院長 中房 祐 司

〒 815-8555
福岡市南区大楠 3 丁目 1 番 1 号
電話 (0570)03-1211 FAX (092)522-3066
URL <https://www.fukuoka-med.jrc.or.jp/>



医療法人 福岡桜十字

桜十字福岡病院

院長 山本 雄 祐

〒 810-0004
福岡市中央区渡辺通 3 - 5 - 11
電話 (092)791-1100 FAX (092)791-1105
URL <https://www.sj-fukuoka.or.jp>



社会医療法人財団 池友会
福岡和白病院

理事長 富 永 隆 治
院 長

〒 811-0213
福岡市東区和白丘 2 - 2 - 75
電話 (092)608-0001 FAX (092)607-3051
URL <https://www.f-wajirohp.jp/>

医療法人 済世会

河 野 病 院
KAWANO Hospital

理事長 河 野 正 美
院 長 今 泉 暢 登 志

〒 811-2413
福岡県糟屋郡篠栗町大字尾仲 139
電話 (092)947-0611 FAX (092)947-8598
URL <https://www.kawano-hp.com/kawano/>
E-mail info@kawano-hp.com



社会医療法人
弘恵会 **ヨコクラ病院**

理事長 横 倉 義 武
院 長 横 倉 義 典

〒 839-0295
福岡県みやま市高田町濃施 480 番地 2
電話 (0944)22-5811 FAX (0944)22-2045
URL <https://yokokura-hp.or.jp>



田 川 市 立 病 院

田 川 市 鴻 江 俊 治
病院事業管理者
病 院 長 松 隈 哲 人

〒 825-8567
福岡県田川市大字楠 1700 番地 2
電話 (0947)44-2100 FAX (0947)45-0715
URL <http://hospital.city.tagawa.fukuoka.jp>
E-mail shiritsubyouin@lg.city.tagawa.fukuoka.jp



社会医療法人 水光会
宗像水光会総合病院
MUNAKATA SUIKOKAI GENERAL HOSPITAL

理事長 津 留 英 智
院 長 田 山 慶 一 郎

〒 811-3298
福岡県福津市日蒔野 5 丁目 7 番地の 1
電話 (0940)34-3111 FAX (0940)43-5981
URL <http://www.suikokai.or.jp>



医療法人相生会
福岡みらい病院

院 長 石 束 隆 男

〒 813-0017
福岡市東区香椎照葉 3 丁目 5 番 1 号
電話 (092)662-3001 FAX (092)662-3002
URL <http://www.fukuoka-mirai.jp/>



医療法人 誠心会

井上病院

理事長 井上 健
院長

〒 819-1104
福岡県糸島市波多江 699 番地 1
電話 (092) 322-3437 FAX (092) 322-5806
URL <https://www.sih.or.jp>



医療法人 社団 俊聖会

甘木中央病院

理事長 中村 雅史

〒 838-0068
福岡県朝倉市甘木 667
電話 (0946) 22-5550 FAX (0946) 24-3572
URL <http://www.amagichuuou-hp.jp/>

医療法人 混江堂 三野原病院

理事長 三野原 元 澄

〒 811-2402
福岡県糟屋郡篠栗町金出 3553
電話 (092) 947-0040 FAX (092) 947-1011
URL <http://www.minkodo-minohara.com>

早良病院

院長 梅野 守 男

〒 819-0002
福岡市西区姪の浜 2 - 2 - 50
電話 (092) 881-0536 FAX (092) 883-8761
URL <http://www.sawara-hp.jp>

医療法人 博愛会
京都病院
みやこびょういん

理事長 岡松 秀 一
院長 中池 竜 一

〒 824-0811
福岡県京都郡みやこ町勝山箕田 298 番地
電話 (0930) 32-2711 FAX (0930) 32-2712
URL <http://www.miyako-hp.or.jp/>
E-mail miyako-post@miyako-hp.or.jp



独立行政法人 国立病院機構

大牟田病院

院長 川崎 雅之

〒 837-0911
福岡県大牟田市大字橋 1044 - 1
電話 (0944) 58-1122 FAX (0944) 58-6804
URL <https://omuta.hosp.go.jp/>

日本医療機能評価機構認定病院
救急病院 指定自立支援医療機関(更生医療)

医療法人 シーエムエス
杉循環器科内科病院

理事長 杉 健三
院長

〒837-0916
大牟田市大字田隈 950 - 1
電話 (0944)56-1119 FAX (0944)56-2077
URL <http://www.sugi-hosp.jp/>



一般社団法人 福岡県社会保険医療協会
なかばる

社会保険 **仲原病院**
Social Insurance Nakabaru Hospital

院長 岡 嶋 泰一郎

〒811-2233
福岡県糟屋郡志免町別府北二丁目12番1号
電話 (092)621-2802 FAX (092)623-2247
URL <http://www.nakabaru-hp.jp>
E-mail nhp-jimu1@nakabaru-hp.jp

*掲載は受付順にさせていただきました。



一番大切な思いやり...
「安心・安全・清潔」

TAIYO 太陽セランドグループ
太陽セランドホールディングス株式会社
〒812-0044 福岡市博多区千代 1-1-5
TEL 092-641-2578 FAX 092-641-5778

太陽セランド株式会社
〒826-0042 福岡県田川市大字川宮 1200
TEL 0947-44-1847 FAX 0947-44-5805

代表取締役 社長 **中島 健介**

 太陽セランドグループ会社

医療関連 サービスマーク認定

- 太陽セランドホールディングス株式会社
- 太陽セランド株式会社
- 太陽シルバーサービス株式会社
- ジャパンエアマット株式会社
- 株式会社北九州シーアイシー研究所
- 株式会社メディカルナビゲーション
- 株式会社サンウエックス

お問い合わせ TEL0947-44-1847 Mail info@taiyoseland.co.jp Web <http://www.taiyoseland.co.jp>

医療・介護・福祉のオンライン展示会
あなたの課題はここで解決！

kyushu hospital show ONLINE
九州ホスピタルショー オンライン

URL : <https://kyushu-hs.com/>

さあ、今すぐ
アクセス！

閲覧無料！

※一部情報は来場受付
登録後に閲覧可能



会期中は24時間
医療・介護の最新情報を
ゲット！

九州ホスピタルショー 🔍 検索

スマートフォンや
タブレットからでも
閲覧可能！



◆開催期間◆

2021年

1.15(金)~**3.15**(月)

※初日は12:00公開開始。最終日は17:00公開終了。

◆主催◆

一般社団法人日本経営協会

◆共催◆

九州医療機器団体連合会

◆掲載カテゴリー◆

- ・医療環境設備・機器関連
- ・医療機器・材料関連
- ・医療情報システム・機器関連
- ・画像関連システム・機器・装置
- ・院内感染・防災対策・セキュリティ関連
- ・看護支援関連
- ・ヘルスケア・健診関連
- ・エコ関連
- ・病院・介護施設運営サポートサービス関連

- お問い合わせ先 -

一般社団法人日本経営協会 九州本部 九州ホスピタルショー-オンライン-事務局

TEL : 092-431-3365 FAX : 092-431-3367 URL : <https://kyushu-hs.com/>

新年、あけまして、おめでとうございます。

2021年、ほすびたる新年号（752号）をお届けします。

冒頭を飾り、小川洋福岡県知事、松田峻一良福岡県医師会会長、それに当福岡県病院協会の赤司浩一会長より新年のご挨拶を賜りました。皆様、それぞれの立場から、コロナ対応にご尽力されている方々で、今後、このウイルス感染を終息に向かわせるための、力強い決意とお言葉をいただきました。お忙しい中、本誌へご寄稿いただき、心より御礼申し上げます。

また、特別寄稿として、この度九州大学総長に就任されました石橋達朗先生に、ご挨拶をいただきました。当協会の前会長でもある石橋先生は、会員の皆様にも、大変なじみの深い先生です。石橋先生の下、九州大学が更なる発展を遂げることを心より祈念しております。

本号では、特に、コロナ禍の中で疲弊する、医療者のメンタルヘルスをいかに維持するかをテーマとして、大江先生（久留米大）と衛藤先生（福岡大）のお二人に、専門家の立場から貴重なご寄稿をいただきました。これは当協会顧問の上野道雄先生のご提案によるものです。精神科の医師や、心理療法士が常駐していない医療施設においても、日常すぐに役立てるような内容で執筆していただきました。会員の皆様にぜひお読みいただきたいと思います。

さて、私の元日の楽しみの一つに、毎年、ウィーンの地で開催される「ウィーンフィル ニューイヤーコンサート」があります。衛星中継で全世界に中継され、リアルタイムで現地と同じコンサートを

楽しむことができます。今年は、コロナ禍とあって、無観客での開催となりました。オーケストラのメンバーはほぼ毎日、ウイルス検査を受けたそうです。いつものように色とりどりの花々で飾られたステージでは、マスクなしのフルオーケストラのメンバーが、巨匠ムーティの指揮のもと、楽しいワルツやポルカを奏でていました。聴衆がいない異例な環境での演奏でしたが、不思議なことに、いつもより心に響き渡ってくるのです。NHKのスタジオで解説をされていた音楽評論家の方も、同じように感じたらしく、いつもより心にしみわたってくる、というようなコメントをされていました。画面では、ウィーンフィルのメンバーが笑みを絶やさず、実のびのびと音楽を奏でていました。コロナ禍という災難の中で、失われたかもしれない演奏の機会を持ったこと、それを聴くことができたこと、演奏者も聴く人もいつにも増してその喜びを感じたのでしょうか。音楽のもつ大きな慰め、癒しの力を感じさせられた体験でした。ちなみに、アンコールの前に行われた、指揮者ムーティ氏のスピーチで、今回のコンサートのテーマが、“希望”であることが告げられました。

最後になりましたが、今月号には、会員の皆様から、たくさんの年賀広告を載せていただきました。心より御礼を申し上げます。

「ほすびたる」編集委員会一同、今年も、“希望”をもって、充実した誌面作りに邁進していきたいと思っています。皆様のご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

（岡嶋泰一郎 記）

ほすびたる

第752号

令和3年1月20日発行

発行 © (公社)福岡県病院協会

〒812-0016 福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号

福岡県メディカルセンタービル 2F

TEL092-436-2312 / FAX092-436-2313

E-mail fukuoka-kenbyou@globe.ocn.ne.jp

URL <http://www.f-kenbyou.jp>

編集 発行人 © (公社)福岡県病院協会

制作 © (株)梓書院

〒812-0044 福岡市博多区千代3-2-1

麻生ハウス 3F

TEL092-643-7075 / FAX092-643-7095

E-mail: mail@azusashoin.com

編集主幹…赤司 浩一

編集委員長…岡嶋泰一郎

編集副委員長…一宮 仁

編集委員…平 祐二・岩永 知秋

壁村 哲平・伊東 裕幸

横倉 義典・田邊 郁子

入院患者様のための連帯保証人代行サービス「メディカルインシュア」

ご存知ですか？
入院時には
連帯保証人が必要

連帯保証人がいないと、場合によっては入院を拒否されることもあります。そうすると、患者様は連帯保証人が不要な病院を探すか、保証人になってくれる人を探さなくてはなりません。

おひとり様の入院に
こころづよい
入院サポート

安心できる入院生活をサポートするサービス

MEDEICAL INSURE

メディカルインシュア

ニッポンインシュアが連帯保証人の代わりにすることで、
安心して治療に専念頂けます!!

「メディカルインシュア」は、入院患者様が入院費をお支払いできない場合に、ニッポンインシュアが一時的に立替えることで、入院費滞納におけるリスクを軽減できる保証です。入院費の督促などの業務もアウトソーシングで本来の業務に専念できます。



メディカルインシュアに関するお問い合わせ

NIPPON INSURE & CO
ニッポンインシュア株式会社
〒810-0001 福岡市中央区天神 2-14-2 福岡証券ビル6F

TEL.0570-05-1080

[受付時間] 9:00-17:30 (日・祝祭日除く)